

《洋上ウィンドファームの漁業協調メニュー案》

1. リアルタイムでの海況情報の提供（必須。漁業操業パターン改善、燃費節約）
2. 風車基礎部の人工魚礁化利用（洗掘防止工の有効利用）
3. 魚介類・藻類の養殖施設の併設
4. 漁業現場への電力供給
5. レジャー施設の併用
 - 5-1. 海釣り公園、遊覧船／展望台
 - 5-2. ダイビングスポット
6. 漁業者の事業参加
 - 6-1. 洋上発電施設の建設・保守点検における漁船利用（請負。漁家収入増）
 - 6-2. 洋上発電事業への出資・参画

対象海域における漁業の実情や将来像に合わせて検討し、漁業協調メニュー・方策を選定することが肝要

（注：（洗掘防止工の有効利用）は後から追加）

発電事業への出資のみではなく幅広に参画（社内外の取締役、監査役等）

《漁業協調に関する経費負担の考え方》

- ・基本的に発電事業者が負担するべき。
- ・漁業以外にも地域振興に資する協調策であれば、公的な補助を含めて、地域全体で経費負担について協議すべき。

主たる洋上風力発電の漁業協調メニュー（着床式）

1. リアルタイムでの海況情報の提供



○水 深：10～30（50）m
○主たる対象：
底魚、貝類、甲殻類、藻類等

2. 風車基礎部の人工魚礁化利用



（風車の周囲に魚礁配置）（右図：洗掘防止工の魚礁化利用）

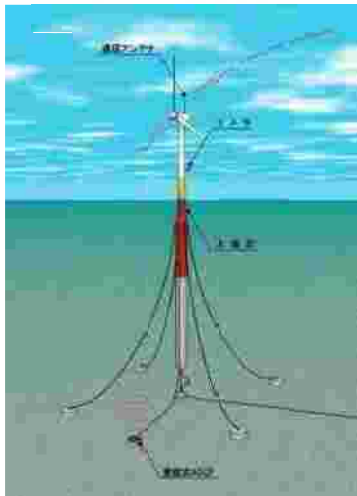


（風車の周囲に魚礁を配置）

（図出典：一般社団法人海洋産業研究会提言資料）

主たる洋上風力発電の漁業協調メニュー（浮体式）

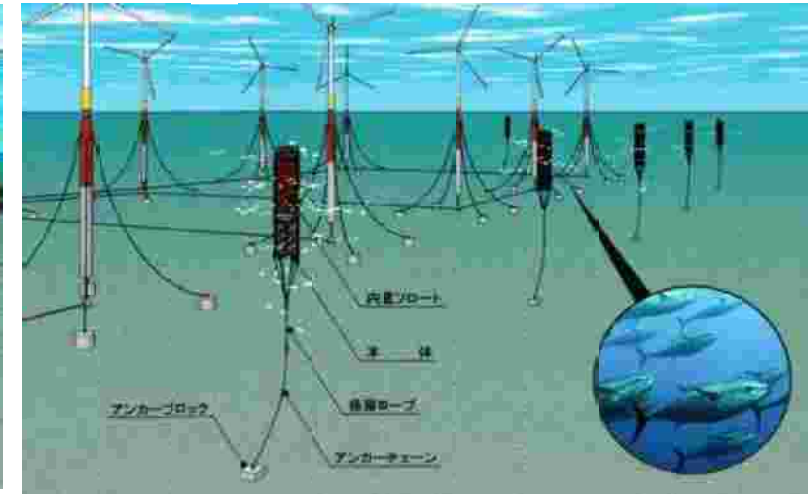
1. リアルタイムでの海況情報の提供



2. 風車群の浮魚礁効果利用



（風車列の**内側海底**に**沈設魚礁**を配置）



（風車列の**外側**にさらに**浮魚礁**を配置し、ウィンドファームの周辺海域での漁場造成を図る：しみ出し効果）

- 水深：70-80m～150m
- 主たる対象（海中空間の立体利用）
 - 表層部 浮魚（含・回遊性魚類）
 - 低層部（周辺海底に沈設魚礁を設置）
底魚、タコ類

内側水域：資源培養海域（禁漁区）
外側水域：しみ出し効果による漁場形成

（図出典：一般社団法人海洋産業研究会提言資料）